

奈良・平城京右京七条一坊十五坪



(奈良・桜井)

5 遺跡の種類 都城跡
 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
 当該地は平城京右京七条一坊十五坪の西辺中央部にあたる。西一坊大路及び同東側溝を確認し、坪の内部では奈良時代の掘立柱建物六棟と井戸一基に加えて、

一一世紀後半から一二世紀初頭にかけての井戸三基を検出した。このうち後者の井戸の一基に墨書曲物が使用されていた。井戸の構造は、円形掘形（径1・2m、深さ30・95m）の底部に墨書曲物を据え、この上部に

- 所在地 奈良市六条町
- 調査期間 一九八五年（昭60）九月～一〇月
- 発掘機関 奈良市教育委員会
- 調査担当者 中井公・森下恵介
- 遺跡の種類 都城跡

- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
 当該地は平城京右京七条一坊十五坪の西辺中央部にあたる。西一坊大路及び同東側溝を確認し、坪の内部では奈良時代の掘立柱建物六棟と井戸一基に加えて、

(1) 「湯屋□延久參年四月十日」

曲物は、厚さ6mmの薄板（檜材）を一巡させた本体（径44・5cm、高さ30・5cm）の両端に籠をはめ込んだもので、底板がはずされていて。墨書は、側板本体の外面中央部に施されている。

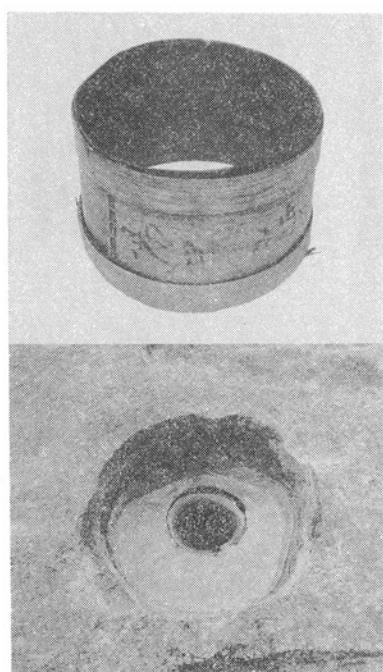
8 木簡の釈文・内容

須恵器甕の口縁部をのせ、その上にいまひとつの曲物を置いている。甕内出土の土器からみて、一一世紀末に廃絶したと推察できる。

9 関係文献

奈良市教育委員会「平城京右京七条一坊十五坪の調査」（『奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和60年度』一九八六年）

（中井公）



墨書曲物(上)と井戸全景(下)